



総合的道德教育プログラム 第3回 全学フォーラムのご報告

多数のご参加、ありがとうございました。

本学の「総合的道德教育プログラム推進本部」主催のフォーラム(第3回)が、本年(2012年)2月16・17日、本学のN講義棟で開催されました。当日は、近隣三市を含む東京都内および全国各地から現職教員および教育委員会関係者、教職を志す大学生等、延べ約290名に参加いただきました。

現在、本プログラムでは、①「道德教育の推進教員養成プロジェクト」②「魅力ある道德教育教材開発プロジェクト」③「道德教育のための体験学習プロジェクト」の3つのプロジェクトが進行しています。平成21年度、22年度には、それぞれの年度末に全学フォーラムを開催し、多数の方のご参加を得ることができました。3年目となる本年度は、学内で進める28のワーキングおよび近隣三市の連携研究協力校6校より取組の成果を発表していただきました。

今回のフォーラム全体としては、1日目は、開催セレモニーにおいて、大阪教育大学名誉教授藤永芳純氏から講話をいただいた後、本学教員や本学附属教員を代表とする28のワーキングによるワークショップ、2日目は、午前中に、本プログラムで実施した道德教育に関する教員の意識調査の報告会、午後には、近隣三市の体験学習連携研究協力校6校から2年間の体験学習の成果発表会という構成で進められました。

2日間にわたって開催された内容について、その概要を以下にご報告します。

2月16日(木)



全学フォーラム開催セレモニー

13:00 ~ 14:00

司会：佐藤 郡衛(本学副学長・推進本部長)

(本学N410教室)

● 挨拶

村松 泰子(本学学長)

● 趣旨説明・講師紹介

● 記念講話 「社会の変化と、今、求められる心の教育」

藤永 芳純(大阪教育大学名誉教授)



セレモニーでは、本学の村松学長の挨拶と推進本部からの本フォーラム開催の趣旨説明の後、藤永芳純先生(大阪教育大学名誉教授)から、全体の方向付けとなる講話をいただきました。

藤永先生は、まず、国際化社会、情報化社会、高齢化社会、生涯学習社会、科学技術社会などと言われる今、求められる道德性の内容について一つずつひも解き、生命倫理や環境倫理と道德的価値のかかわりにも触れながら、価値観の喪失といわれる現在の状況に対して問題提起をされました。また、様々な少年事件をきっかけに心の教育が充実していった経緯などを踏まえて、道德教育やその要としての道德の時間、さらには、教員養成における道德教育関連科目の充実を図るために、そのポイントも含めて講話をしていただきました。





ワーキング成果発表会（ワークショップ形式） 14:00～16:30

（本学N棟各教室）

セレモニーに続くワーキング成果発表会では、本プログラムの「魅力ある道德教育教材開発プロジェクト（第2プロジェクト）」の18のワーキンググループが様々な視点や形態で開発した道德教育教材と、「道德教育のための体験学習プロジェクト（第3プロジェクト）」の10のワーキンググループが開発した心を育てる体験学習プログラムについて、N棟のほぼ全室に分かれ、2時間半にわたってワークショップ形式で発表しました。

本学の様々な専門分野の教員と各附属学校の教員がチームを組んで進めた研究であるだけに、その多彩さは目を見張るものがあり、例えば、冊子型、パネル型、カード型、映像、パソコン用のシステムなどの教材や、疑似体験や実演や演奏を伴う体験学習プログラムなど、各グループの趣向を凝らしたワークショップに、時間を惜しみながら回る参加者が多く見られました。



ワークショップの様子（一部）



「命」の視聴覚教材上映



実験観察で生物尊重を



伝統音楽教育にかかわる実演



交流学习の展示



「心の芯」を耕す実践



石磨ぎに熱中の参加者



サウンドピンポン



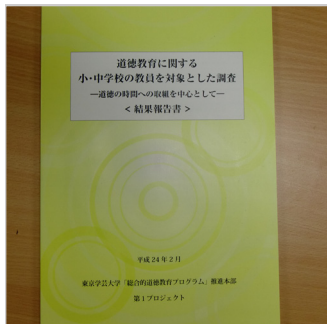
宿泊型体験活動の効果



アンネ・フランク教材



コーディネーター：永田 繁雄（推進本部副本部長）（本学N410教室）



- 挨拶・調査の趣旨
- 調査報告 藤澤 文（推進本部特任講師）
- 協議
（論点提示・講評）..... 押谷 由夫（昭和女子大学教授）

2日目の午前は、全国の約 3500 名にも上る教員を対象とした調査から明らかになった道徳教育や道徳の時間の課題、大学の授業への期待などを報告し、皆さんで今後の方向などを議論しました。

調査報告では、小学校と中学校、一般の学校と研究指定校などのそれぞれの取組の様子、教師の意識の特色、創意工夫の内容、よく使う資料、さらには、大学における「道徳の指導法」についての受け止めなどの結果を報告し、その違いの原因や、「心のノート」の活用の在り方などがフロアの話題となりました。

コメンテーターとして登壇いただいた押谷由夫先生には、例えば、「道徳の時間の充実を図ることで、各指導の関連を図ることの効果や、学力の向上に結びつくことを、この調査を生かして一層意識して進めてほしい」などと前向きな講評を数多くいただきました。

（調査結果は、本ホームページにも掲載していくこととしています。幅広く活用いただくことを期待しています。）



コーディネーター：松尾 直博（推進本部副本部長）（本学N410教室）

- 挨拶・趣旨説明

小学校3校の成果報告

小金井市立小金井第四小学校

互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う児童の育成

小平市立花小金井小学校

自然に親しみ、人のかかわりの中で豊かな心を育む児童の育成

国分寺市立第十小学校

共に生き、自らかかわる子の育成 ～体験活動と道徳の時間を関連づけて～

中学校3校の成果報告

小金井市立小金井第二中学校

自然を大切に、集団や社会とよりよい関係を作り上げるために、進んで行動できる生徒の育成

小平市立花小金井南中学校

キャリア教育における道徳性の向上

国分寺市立第三中学校

直接体験を深化させ、豊かな心の成長を図る工夫

本学の近隣3市（小金井市、小平市、国分寺市）の小・中学校6校と、心を育てる体験活動の連携研究を2年間にわたって進めてきましたが、2日目の午後には、その成果報告を各学校よりしていただきました。本連携研究では、本学の教員がそれぞれの専門性を生かして各学校の先生方の研究にかかわり、本学としても、大変貴重な機会を広げることができました。

各学校の研究テーマは前ページに挙げたとおりです。例えば、宿泊体験を生かして自尊感情や仲間意識を高める体験活動、環境体験や福祉体験を重ねて心を育む活動、道德の時間との関連を生かして共生の意識を高める実践、緑化実験や社会貢献体験から心の豊かさを育む活動、キャリア教育の全体的な構想に焦点を当てて広く取り組んだ実践、体育祭や保育体験などに焦点を当てた心育成プログラムなど、各学校がそれぞれの地域性や特色を生かした活動に取り組み、その成果を具体的に報告していただきました。

- 全体討議・情報交換
- 成果発表会終了



当日いただいたアンケートから（一部の概要）

当日の多数のアンケートの中には、本プログラムへの貴重なご意見も多く、この後の充実に向けて大きな力を得ることができました。最後に、その一部ですが、お礼とともに紹介いたします。

<全体やワーキング成果発表会などで…>

- ・ 道德教育のこれからについて、多面的、多角的に考える場となった。
- ・ 東京に来た甲斐があった。学芸大のHPは、これからも注目して時折チェックさせていただきたい。
- ・ 開発教材などでの道德教育への熱い思いが感じられた。また教育活動全体での道德とのかかわりに刺激を受けた。身近なところで視点をうまく合わせると多くの材料があるのだと感じた。
- ・ 例えば、環境教育では、自然のことを味わいながら自分を磨ける活動だということを学んだ。
- ・ 屋台形式で見られたのが参考になった。価値葛藤について聞きたかったが、その時間がなかった。
- ・ 開発した教材について、道德教育や「心の教育」のための手だてをもう少し聞かせていただけたらと感じた。



<教員調査結果報告会などで…>

- ・ 道德が「学力の向上に効果がある」と私も強く思った。私の学校は荒れていたが、学校が落ち着きを取り戻し、学力においては大幅に向上した。
- ・ 調査から、教育現場が道德で大変苦勞されていることがわかった。調査の自由記述の部分や一覧表などは大いに役立てられる。
- ・ 指定校では「児童が好きな授業」と感じる割合が高まるのが納得できる。ただ中学生になると非常に低くなるのがとても残念だ。
- ・ 横着かもしれないが、時間をかけなくても見せるだけで心を動かすような教材や、一番オススメの教材と簡単な授業の流し方などが書かれていると参考になる。

<体験学習連携研究協力校成果発表会などで…>

- ・ 様々な人とかわりながら体験活動を行うことで、自分の周りの社会や人とのつながりに気付かせるように工夫をされていたのが参考になった。
- ・ 道德の時間の指導を他の教科学習や体験活動と深く意識してかわらせていくことは、今後の大きな課題だと感じている。
- ・ 体験活動と道德の時間との関連の基本形（サイクル）がとても大切なことであると感じた。
- ・ 直接体験の少ない子どもたちに、どんな体験をさせることが有効なのかを研究し、限られた時間の中で実行することの大切さを知った。教師主導のスムーズな宿泊訓練では子どもは育たない気がした。
- ・ もう少し現場の先生の生の声が出されるようにしていただければと思われた。例えばテーマを絞って分散してもよかったのでは…。
- ・ プログラムの実践においての成果があったとあるが、どんな変容が見られたのか、より客観的な資料なども見てみたかった。